

住宅と窓 その3

Vol. 5

P

第5号のポイント

1. 「内倒し固定」と「内開き」の開閉ができる「ドレーキップ」。
2. 「内開き」の窓は、2階でも外側のガラス拭きが簡単。
3. 「内開き」の窓は、構造上、確実に気密が取れる。

?

筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)
1975年 群馬県生まれ
日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒューズ)の開発メンバーに携わる一人。
スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
筆者ホームページ：
<http://mala-gruppen.com>



「内倒し固定」状態 …… 換気時など

「内開き」状態 …… 掃除時など

レバーハンドルで2種類の開閉ができる「ドレーキップ」(Komoto Hus)

Hejsan! 前回のお話では、2+1=3層ガラスの「ツー・プラス・ワン」という窓であれば、内蔵ブラインドによって夏場の日射熱を効果的に防げる…とご紹介しました。

3層ガラスでも珍しいのに、2+1=3層ガラスとは、世界にはまだ知らないものがたくさんありますね。珍しいといえば、この窓は開閉方式もユニークです。「ドレーキップ」というドイツ製の金具を使っているのですが、レバーハンドルの操作でなんと2種類の開閉ができるのです。

この窓は、レバーハンドルの位置によって、「内倒し固定」と「内開き」状態ができます。まるで手品です!

「内倒し固定」は、室内の換気をする際に便利です。 少くらの雨ならば、雨も室内に入りません。

外側からはハンドル操作ができないため、防犯性も高いので安心です。

「内開き」は、主に掃除をする際に使います。 内開きであれば、2階の窓でも安全で簡単に外側のガラスをきれいに拭くことができます。これって結構重要なことですよ。

日本で一般的な「引き違い」の窓は、スウェーデンでほとんど使われていません。

構造上、気密が取りにくいからです。「内開き」の窓は、日本でまだ馴染みがありませんが、確実に気密が取れるため、これから求められる低燃費住宅においては必要不可欠な窓と言えるでしょう。

今回は、もう一つ珍しいスウェーデン製の窓をご紹介します。「トップターン」という回転型の開閉方式でスウェーデン本国で最もよく使われている3層ガラスの木製窓です。楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovation : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。